

第3号様式（第8条関係）

令和7年3月31日

令和6年度地域おこし協力隊活動報告書

余市町長 様

余市町地域おこし協力隊員 蔓木 勇波

令和6年度余市町地域おこし協力隊の活動内容について、余市町地域おこし協力隊設置要綱第7条第2号の規定により、その実績として関係書類を添えて報告致します。

## ① 共栄丸漁業部 漁業支援

---

漁業支援で行ったのは、主に以下の5つである。

1. 漁具の修繕・整備
2. 漁具の投入
3. 漁期中の網起こし及び市場への水揚げ
4. 漁具の回収
5. 冬季期間の除雪作業

余市町では年間を通して様々な漁が行われているが、その中でも共栄丸漁業部は唯一定置網漁を行っている船である。定置網とは日本伝統の漁法の一つであり、その歴史は500年を超える。魚を求めて移動したり漁具の設置場所を変えたりする他の漁法とは違い、一箇所に網を固定したうえでそこに入り込む魚だけを漁獲する漁法であり、漁獲できる魚はある程度時期で決まってはいるものの、基本的には多魚種を水揚げすることが前提である。しかし、網の目の細かさを変えることで若い魚を逃がすことが出来るうえに、網の入口は入った魚が逃げにくくなってはいるものの6~7割の魚は逃げているとも言われており、工夫次第によっては持続可能な漁業を目指すことも出来る漁法である。漁師になるとして、この先数十年変わらず漁業を続けられるのかと考えていた私にとってはまたとないチャンスだと思い、今年度の受け入れ先として共栄丸漁業部さんに受け入れのお願いをすることにした。

5月から7月初旬までは前年に傷んだ漁具・漁網の修繕や、今年度の漁に向けた漁具の準備等を行った。この期間は基本的に朝出勤し、適度な休憩を挟みつつお昼は1時間休憩と会社員のような就業時間での業務だったため、『海に出られる日はすべて仕事』という従来の漁師のイメージとは異なる働き方だった。具体的な業務内容としては、網の破れている部分や網の擦れている部分を修繕する作業や、重りとして利用する土嚢袋の製作、網と網の各部を結ぶためのロープの製作などである。

7月初旬から8月下旬までの期間は準備した漁網や漁具を海に投入する業務がメインとなり、ここに来てようやく船に乗って沖に出るようになった。この時期の作業は危険を伴うことが多く、気の抜けない日々だったためかなりの疲労感があったが、海にすべての漁具を投入し終えたときの達成感は今までにないものであった。具体的な業務内容としては、定置網の全体の形を決める綱と浮きの『型』と呼ばれるものを投入しアンカーで固定する作業から始まり、いくつかに分かれている網をそれぞれの場所に投入し型と結ぶ作業、網を設置していることを示すためのブイと灯火の設置などである。

8月下旬から12月初旬までの期間で漁を行った。定置網の現場は初めてだったため、大量の魚が網の中に入っている光景は非常に興奮するものであったし、やりがいを感じる場面であった。時期によって変遷する魚種や、稀に入る南側の魚だったり、大型のマグロが入ったりと様々な魚を水揚げしたが、値段の差が非常に大きく、苦勞して取った魚が低

価格で買われるのを目の当たりにすると非常に複雑な気持ちになり、こういったところを改善していきたいと考えるようになった。

12月初旬から2月下旬までは漁を終え、投入した漁具を回収する作業を行った。冬季の余市の海は荒れることが多く、なかなか漁具の回収が進まなかったため、本来1ヶ月ほどで終わるはずの作業が数ヶ月かかってしまうことになった。この期間は除雪も並行して行っていたため、朝に除雪だけ行い、海が荒れているため休日というような日々が続いた。大量に投入していた漁具がすべて無くなった海を眺めると、ほんの少し悲しい気持ちになったが、それと同時に1年間の漁師生活をやりきった達成感も感じた。

3月頭からは再度漁具と漁網の修繕作業に戻り、ここからまた同じような流れで一年間進めていくことになると思われる。

一年間漁師見習いとして活動していた中で感じたことがいくつかある。

#### **・現場の高齢化と担い手及び後継者不足**

共栄丸の乗組員は私を除くと50代が最も若手であり、最年長は77歳になる。長く船に乗っている方たちばかりであり、多岐にわたる仕事内容を把握・理解し実践されているが、一人でも抜けてしまうと仕事が立ち行かなくなる危険性を感じた。また、それを防ぐために後継者を受け入れ技術を継承することが重要だが、現状そのような立ち位置の人間がいないため、継続的に操業できない可能性がある。

#### **・魚種による価格差**

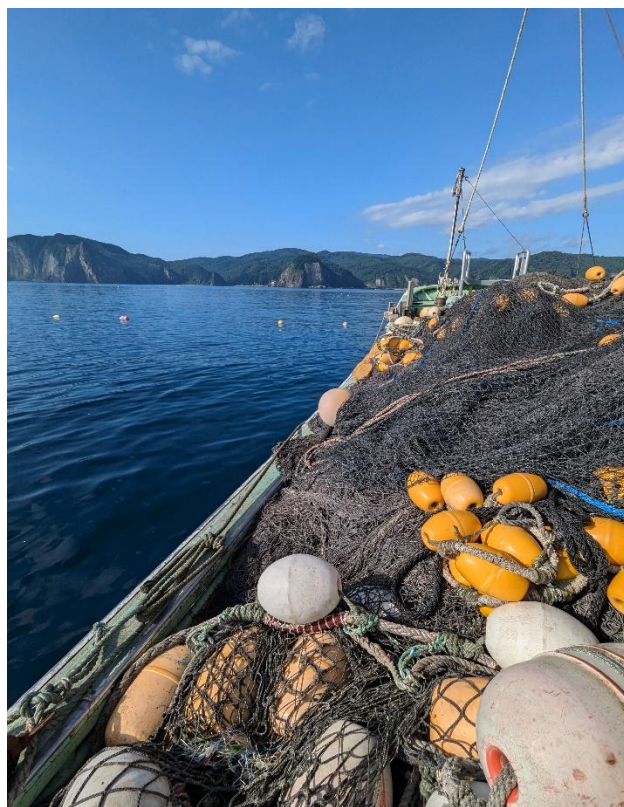
共栄丸の水揚げの中でも高い価格が付くのが、秋鮭と活締めブリである。これらは1kgあたり1000円台になることもあるのだが、値段のつきにくい小型のサバやマフグ、クロゾイなどは1kgあたり数十円という値段になることもある。これらの低価格のものは市場に水揚げをしても、むしろ経費がかかり赤字になってしまうためやむを得ず廃棄してしまう場合もある。こういった低価格の魚の利用方法を見つけることで、売上の向上だけでなく、資源の保護にもつながると考えられる。

これらを解決していくことが、今後漁業を続けられるかを左右していくひとつのポイントになると考えられる。残りの任期1年の中で、少しでも改善させられる手はないか考えながら過ごしていきたいと思う。

番屋での網修繕作業



沖での網投入作業



型の投入後



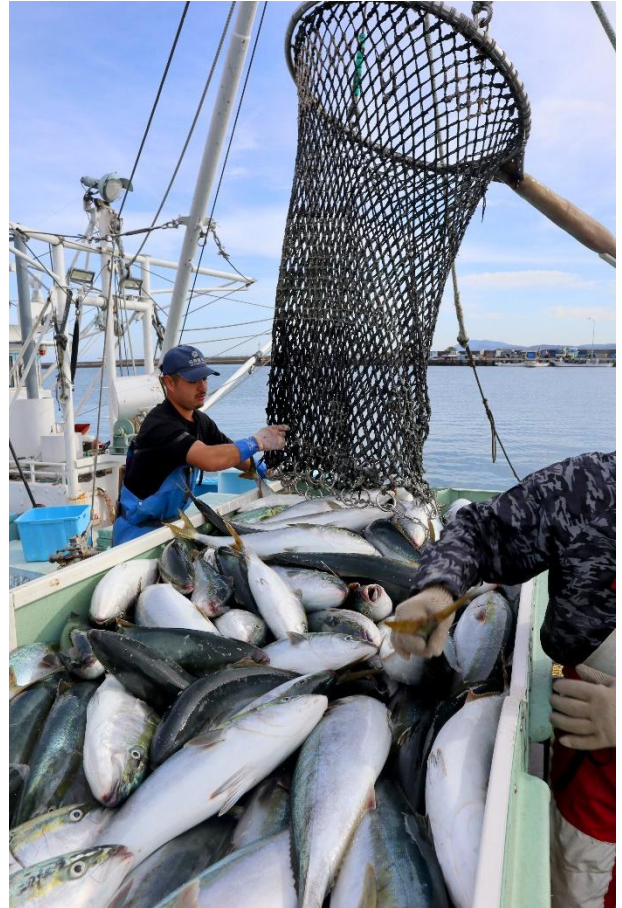
漁獲したブリを入れる船倉



活メブリはタンクに入れて運ぶ



ブリを大きさごとに選別



## ② その他

---

上述したもの以外に行った活動は以下の4つである。

1. 各メディア取材対応
2. 人脈形成
3. 講演会での話題提供
4. 余市水産物・ワイン PR イベントの開催

### 1.各メディア取材対応

今年度も前年と変わらず、役場の広報誌を始めいくつかのメディアから取材の依頼を受けた。前年よりも〇〇を見たよという声かけをいただくことが多くなり、着実に地域に名前と顔が浸透していることを実感している。また、PRTIMES にプレスリリースを出したことで、町外の方から連絡をもらうこともあった。来年度も引き続き積極的にメディア取材を受けていき、地域おこし協力隊の肩書がある間にできる限り認知度を上げていきたい。

### 2.人脈形成

昨年度は町内の水産関係者とのつながりを作ることを重視していたが、今年度は町外で活躍されている水産関係者との繋がりを多く持つことができた。これによって、一人では実現が難しいと考えていた活動を実現出来るところまで持っていくことができた。来年度も引き続き人との繋がりを大切にし、更にコミュニティを広げていければと考えている。

### 3.講演会での話題提供

1月に余市町公民館で行われた余市町公開セミナー「食を通じた地域づくり」にて、話題提供として、『水産資源からみた余市町』というお話をさせていただきました。外部から移住してきて一次産業の現場に携わっているものとして、余市町にきて感じたことや現場で感じたことを元に、今後どういったことをしていくべきかという考えを共有させていただきました。今後もこういった、私の考えや活動内容を伝える場があれば積極的に参加し、協力してくれる人脈を形成していきたい。

### 4.余市水産物・ワイン PR イベントの開催

今年度は1月に東京で、3月に札幌で余市の水産物とワインを楽しんでもらうレストランイベントを、協力隊員の嶋田さんと共同で開催した。1月のイベントは主に Instagram で多くのフォロワーを抱えるインフルエンサーを招待し、余市町の魅力を広めることを目的とした。3月のイベントは主に飲食業界に関わる経営者の方などを招待し、余市の水産物やワインを提供する店を増やすことなどを目的とした。

また、1月に後志地域の女性農家さんの研修会にてブリのお刺身を提供させていただいた。このブリは12月頃に共栄丸にて水揚げしたものを、組合の冷凍加工場が柵取りし真

空パックで急速冷凍した新商品であり、商品の質が良いのでぜひ広めていきたい商品である。

1月の東京でのイベント風景



3月の札幌でのイベント風景



女性農家さんたちの研修会にて



以上